

## 第7回 北大阪急行線延伸技術検討会 議事要旨

### 1. 日 時

令和3年3月23日（火）午後3時00分～午後4時30分

### 2. 場 所

リモート開催

### 3. 出席者

#### （座 長）

一般財団法人 災害科学研究所 理事長 大阪大学 名誉教授 松井 保

#### （構成員）

一般財団法人 地域地盤環境研究所 特別顧問 竹村 恵二

京都大学大学院 工学研究科 教授 木村 亮

京都大学 防災研究所 教授 澤田 純男

独立行政法人 鉄道建設・運輸施設整備支援機構 大阪支社長 堀口 知巳

株式会社大阪メトロサービス監査役 塩谷 智弘

#### （オブザーバー）

大阪府 都市整備部 交通道路室 都市交通課長 日田 哲也

（代理出席：大阪府 都市整備部 交通道路室 都市交通課 参事 清水 章）

大阪府 池田土木事務所長 山本 正志

（代理出席：地域支援・企画課長 参事 南尾 一広）

箕面市 鉄道延伸政策総括監 小川 寿裕

阪急電鉄株式会社 都市交通事業本部 交通プロジェクト推進部長 奥野 雅弘

北大阪急行電鉄株式会社 常務取締役 神谷 昌平

以上、構成員6名 オブザーバー5名

## 4. 議 事

### (1) 報告事項：シールドトンネル掘進状況について

- 新千里北換気所までの掘進データやカッタービットの損傷状態によると、現地の地盤、特に前半の神戸層群は当初設計で想定していた以上に硬かったと考えられる。今後、工事記録作成時において、施工実績を分析して設計時との比較・評価を行う等、今後のより良い施工に向けたバックデータとして整えておくこと。
- 新千里北換気所以南の掘進においては、大阪層群における既存の施工結果を踏まえて掘進管理基準値を設定しているが、新千里北換気所を発進した後にその基準値が適切であるかを確認しながら掘り進めるとともに、トライアル計測を行うとしている。また、トライアル計測では、FEM解析によって判定基準となる変位量を事前に設定し、計測値との比較を行い、必要に応じて掘進管理基準値の見直しをとしている。このような手法は、現地地盤に適合した適切な掘進管理基準値の設定が可能となるため、妥当と考えられる。
- 新千里北換気所以南の掘進においては、設計時の地盤条件と実際に掘進した地盤を比較し、より詳細に工事記録を整理するため、排土のサンプルを残しておくなど、参考となる資料を収集すること。

### (2) 報告事項：障害物撤去の進捗状況について

- 凍土造成の範囲が、過年度の詳細ボーリング調査の結果を踏まえて縮小されており、近接建物への影響を緩和する方向になっている。実際の施工においては、計測値を常時監視するなど、慎重に施工すること。
- 凍土解凍において生じる地盤の緩みについては、粘土層への薬液注入を併用しており、沈下量を抑制する方法として妥当である。

### (3) 報告事項：開削トンネル区間・高架橋区間の進捗状況について

- 開削トンネル区間・高架橋区間における現在の工事進捗状況が報告された。
- 「開削トンネル区間」については、非対称土留工が仮設施工されていることから、仮設材等の撤去に当たっては、実施している計測管理を継続するとともに注視し、慎重を期すこと。
- 「高架橋区間」については、国道・河川等を跨ぐ箇所も存在することから、上部工架設には、通行止めなどの交通処理を的確に実施し、安全施工に向けて細心の注意を払うこと。

以上